

エッジコンピューティング用ミドルウェア Gravio (グラヴィオ) 提供開始
Windows パソコン 1 台から本格的なエッジ型 IoT をノンプログラミングで導入可能
 ～ データの取得、加工、連携に加え **IoT 機器の制御** も手軽に実現し **シェア No.1** を目指す ～

インフォテリア株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：平野洋一郎、証券コード：3853、以下、インフォテリア）は、本格的なエッジコンピューティング^{*1}用ミドルウェアとして、IoT^{*2}を介したデバイス連携・制御やクラウドサービス等との連携を手軽に実現する新製品「Gravio」（グラヴィオ）を2017年6月21日より提供開始することを発表します。本製品は、インフォテリアが提供するIoTソフトウェア基盤の第2弾となります。

■ **Gravio とは**

IoTソリューションにおける、分散したエリアでの効率的なデータ収集と活用をシンプルに実現するために開発したエッジコンピューティング用新世代ミドルウェアです。世界中のあらゆる現場で幅広く普及しているWindows上で動作することで、既存のPC運用における知見や情報リソースを最大限に活かしながら、先進のIoTソリューションを手軽に実現します。



< Gravio システム概要 >



< Gravio 6 大特長 >

- 1：センサーデータ処理。IoT 機器からのデータ加工・連携を一元的にエッジで処理可能。
- 2：各種デバイスの制御が可能。IoT 機器に対する作動制御（命令発行）が可能。
- 3：COM ポートも対応。RS-232C^{*3}から EnOcean^{*4}まで多様な通信手順で IoT 機器と接続可能。
- 4：ノンプログラミング。直感的かつ流麗なインターフェースにより高い操作性を提供。
- 5：レイアウトビュー。エリア内に設置された IoT 機器の状態を画面上で俯瞰することが可能。
- 6：Windows 10 で動作。運用、管理、保守が容易でかつ高いセキュリティを実現。

■ **Gravio 発売の背景**

あらゆる産業・業界においてIoTソリューションが注目されています。しかし、センサーやゲートウェイなどの機器の取り扱いが難しいことや、それらの機器だけでなく、管理するソフトウェアやクラウドの領域までの幅広い知見が必要になることが普及を阻む要因になっています。

また、IoT機器は多数分散されて設置されることが多く、即時性やコストの観点からも全てをク

クラウドに直結すればよいとは限りません。このため、データの重要度、即時性、環境条件などを基に様々な処理方式を現場において効率的に組み合わせることができる、エッジコンピューティングが改めて注目されているものの、専用性が高い機器が多く、高度なプログラミング知識も要求されるため、ビジネス現場では扱いにくいツールしかありませんでした。

インフォテリアではこうした課題を抜本的に解決し、本格的な IoT ソリューションの構築およびエッジコンピューティングを実現するプラットフォームとして「Gravio」を開発。企業データ連携ソフトウェア市場シェア国内 No.1^{*5}の主力製品である ASTERIA で培ってきたノウハウをベースに、直感的なノンプログラミングによる IoT の各種データの加工、連携を実現しました。これにより、データだけではなく、システムそのものの「見える化」も可能となり、開発、管理工程においても高速かつスマートに IoT ソリューションを実現します。

■ サービスメニュー

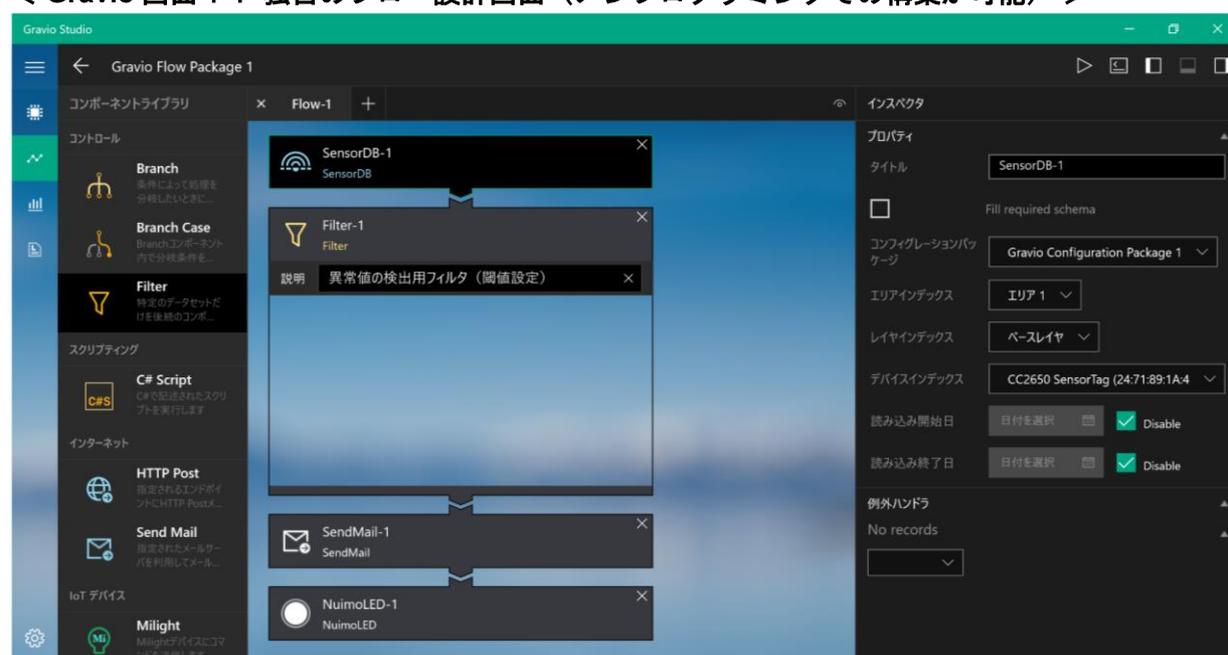
無償モデル「Gravio Basic」を含めた多様なスペックをラインアップ。

機能		Gravio Basic	Gravio Standard	Gravio Premium	Gravio Enterprise
スケジュールタスク数		1	10	50	100
デバイス管理	エリア数	1	2	4	10
	レイヤー数	2	4	10	10
管理用アカウント		1	2	4	10
フローサービスサーバー		エッジのみ (Win10)	エッジのみ (Win10)	エッジまたはクラウド	エッジまたはクラウド
価格 (税別)		無償	2万円/月	15万円/月 150万円/年	300万円/年
提供開始時期		2017年6月21日		2017年12月 (予定)	

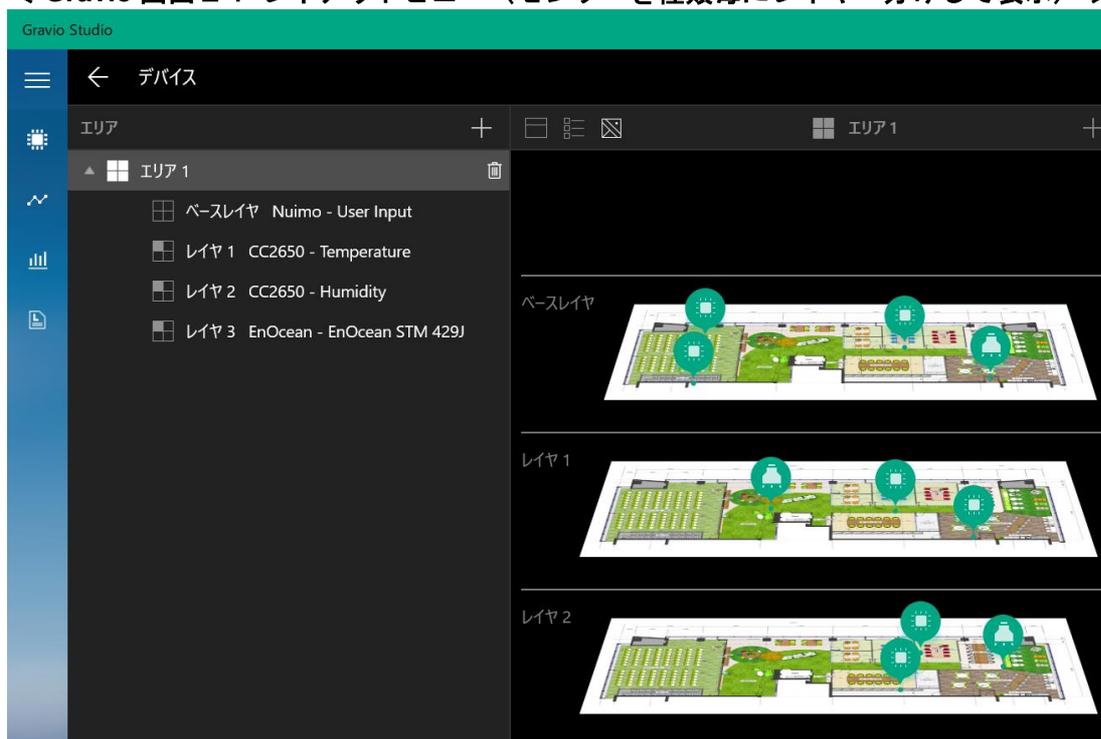
< Gravio 紹介特設サイト >

<https://gravio.com>

< Gravio 画面 1 : 独自のフロー設計画面 (ノンプログラミングでの構築が可能) >



< Gravio 画面 2 : レイアウトビュー (センサーを種類毎にレイヤー分けして表示) >



■今後の展開

新製品 Gravio の発売により、インフォテリアは IoT をエッジサイドから牽引する方針です。具体的には、IoT を活用する領域の幅を広げていく上で様々なセンサーベンダー、クラウドベンダーなどとの協業を加速します。また、大規模な IoT システムの構築に不可欠となるシステムインテグレータとの協業も促進し、今後においてパートナー制度を展開する計画です。

さらには、グローバル展開を見据えた英語版も今後リリース予定であるなど、Gravio は 2020 年度末までに全世界におけるエッジ型ミドルウェア市場の 世界シェア No.1 の獲得も目指してまいります。

< エンドースメント (五十音順) >

■ 株式会社ウフル 様

株式会社ウフルは、インフォテリアが開発したエッジコンピューティングプラットフォーム「Gravio」の提供開始を心より歓迎致します。「Gravio」と、当社の IoT オーケストレーションサービス「enebular (エネブラー)」を組み合わせることで、IoT の利活用が更に加速することを期待しております。今後も株式会社ウフルはインフォテリア株式会社と IoT パートナーコミュニティにおいて密に連携し、IoT を活用したビジネスの更なる発展に寄与してまいります。

株式会社ウフル 専務執行役員 IoT イノベーションセンター所長：八子 知礼

■ 沖電気工業株式会社 様

OKI はインフォテリア株式会社が開発したエッジコンピューティングプラットフォーム「Gravio」の提供開始を歓迎致します。当社が既に多くの販売実績を持つ 920MHz 帯マルチホップ無線「SmartHop」と組み合わせることで、双方の特長を融合したメリットのある IoT 活用が可能となり、導入企業のビジネスに有効なものになると確信しております。今後も、OKI はインフォテリア株式会社と連携し、IoT によるお客様の更なるビジネス発展に寄与してまいります。

沖電気工業株式会社 情報通信事業本部 IoT プラットフォーム事業部長：井上 肇

■ 株式会社 Cerevo 様

Cerevo は IoT がこのように注目される前から、インターネットに繋がる革新的な家電製品を提供し続けてまいりました。また、本年 2 月からは、IoT 開発ツール'BlueNinja'にて、インフォテリア様とも協業を行っています。今回、さまざまな IoT 機器に対応する本格的なエッジ・ミドルウェア「Gravio」の登場は、両社が目指す幅広い用途での IoT ソリューションの普及に繋がるものと大いに期待しております。

株式会社 Cerevo 代表取締役：岩佐 琢磨

■ さくらインターネット株式会社 様

この度は、インフォテリア株式会社のエッジコンピューティング用ミドルウェア「Gravio」の出荷、おめでとうございます。当社は現在 IoT を積極的に推進しています。例えば「sakura.io」は、通信モジュールからデータの保存/連携まで IoT に関わるネットワークとデータのやり取りを統合的に実現していますし、昨年 4 月にはフォグコンピューティングを推進する世界的な団体「OpenFog Consortium」にアジア地域初の「Contributing Member」として加入し、フォグ/エッジコンピューティングの普及をも推進しています。今回発表された「Gravio」が、様々なデバイスと「sakura.io」を補完するエッジ・ミドルウェアとして、幅広い IoT ソリューションの普及に寄与することを、大いに期待しております。

さくらインターネット株式会社 代表取締役社長：田中 邦裕

■ 株式会社ソラコム 様

株式会社ソラコムは、この度のインフォテリアのエッジコンピューティング用ミドルウェア「Gravio」提供開始を歓迎します。当社は、通信とクラウドを融合した IoT 通信プラットフォーム「SORACOM」を提供しています。「Gravio」は、使い慣れた Windows10 搭載 PC でのセンサーなどの IoT デバイスと簡易に接続でき、SORACOM のモバイル通信と組み合わせる事により、どこでもすぐにデータ送信が開始できます。さらに、セキュリティへのご要望の強いお客様には、SIM を用いた閉域網でご利用いただくことも可能です。「Gravio」が、様々な業界での、更なる IoT 事例の活用を促進してくれると期待しています。

株式会社ソラコム 代表取締役社長：玉川 憲

■ デル株式会社 様

デル株式会社は、インフォテリア株式会社が開発したエッジ型 IoT ソリューション「Gravio」の提供開始を心より歓迎致します。「Gravio」と当社が提供する各種 Windows10 コンピューティングプラットフォームの利用により、IoT を容易に導入できるようになり、更に加速することで、様々なシーンにおける生産性の向上が実現されることを期待しております。今後も当社はインフォテリア株式会社と密に連携し、お客様のビジネスの更なる発展に寄与してまいります。

デル株式会社 常務執行役員 クライアント・ソリューションズ統括本部長：山田 千代子

■ DMM.make AKIBA 様

DMM.make AKIBA は、IoT の世界を広げるエッジコンピューティング用ミドルウェア「Gravio」の出荷を歓迎いたします。DMM.make AKIBA は、「モノを作りたい人が必要とする、全てを。」をコンセプトとして、IoT 機器をはじめとするハードウェアスタートアップの支援を行う国内トップクラスの施設です。インフォテリアの「Gravio」の登場によって、企業における IoT 導入のハードルが下がり、多くのスタートアップが活躍するフィールドが広がることを大いに期待しております。

DMM.make AKIBA 総支配人：橋場 光央

■ 日本マイクロソフト株式会社 様

日本マイクロソフトは、エッジコンピューティング用ミドルウェア Gravio の提供開始を心より歓迎いたします。マイクロソフトは、Microsoft Azure を基盤としてグローバルで実績を持つ IoT ソリューション「Azure IoT Suite」を提供しています。Windows 10 のネイティブアプリケーションとして、本格的なエッジコンピューティングの可能性を大きく広げる

「Gravio」は、Azure IoT Suite の各種サービスとの組み合わせでさらに顧客ニーズにマッチした先進の IoT ソリューションが提供できるものと期待しております。今後も日本マイクロソフトは、インフォテリア株式会社様と連携のもと、最新のテクノロジーでお客様の事業発展に貢献してまいります。

日本マイクロソフト株式会社 執行役員 デベロッパー エバンジェリズム統括本部長：伊藤 かつら

■ パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社 様

パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社は、インフォテリア株式会社のエッジコンピューティング・プラットフォーム「Gravio」の発売を心より歓迎いたします。

「Gravio」の登場により、パナソニックグループのセンシング機器と IT を組み合わせ、製造・流通分野での IoT ソリューションビジネスを展開できると確信しております。さらに、これまで 300 社を超えるお客様にご提供させていただいている ASTERIA を活用し、IoT と基幹システムの連携を図ることで、トータルソリューションサービスを推進して参ります。

パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社 専務取締役：大西 元

■ ぷらっとホーム株式会社 様

ぷらっとホームは、エッジコンピューティング用ミドルウェア Gravio の出荷を歓迎いたします。当社は、国内における IoT ソリューションのパイオニアとして、IoT ゲートウェイ製品「OpenBlocks® IoT Family」を積極的に展開しています。今回、Windows 10 で稼働する本格的なエッジ・ミドルウェア「Gravio」の登場は、幅広い企業や現場での IoT の普及を OpenBlocks® と共に推進していけるものと大いに期待しております。

ぷらっとホーム株式会社 代表取締役社長：鈴木 友康

■ レノボ・ジャパン株式会社 様

レノボ・ジャパン株式会社は、インフォテリア株式会社が開発したエッジ型 IoT ソリューション「Gravio」の提供開始を心より歓迎致します。「Gravio」とレノボが提供するハードウェアの利用により IoT の現場導入が一段と加速し、お客様の生産性がより向上することを期待しています。今後、お客様に更なる価値をお届けすべく、レノボ・ジャパンはインフォテリア株式会社様とのパートナーシップを推進し、お客様のビジネスの発展に貢献してまいります。

レノボ・ジャパン株式会社 執行役員専務：安田 稔

■ レンジャーシステムズ株式会社 様

レンジャーシステムズ株式会社は、インフォテリアが開発したエッジコンピューティングプラットフォーム「Gravio」の提供開始を心より歓迎します。「Gravio」と当社が既に実績を持つ mono コネクト各種デバイスを組み合わせることで、様々なセンサー情報を簡単に利活用でき、ビジネスに有効なものとなることを確信しております。今後もレンジャーシステムズ株式会社はインフォテリア株式会社と密に連携し、お客様のビジネスの更なる発展に寄与してまいります。

レンジャーシステムズ株式会社 執行役員 兼 mono コネクト事業部 事業部長：木村 秀一

- ※1:小さなエッジサーバーを複数配置し、データ処理の速度や能力を高める技術。
 - ※2:Internet of Things の略で「モノのインターネット」。様々なモノがインターネットに接続され情報交換することにより相互に制御する仕組み。
 - ※3:シリアルポートのインターフェース規格。パソコン同士の直接接続や、周辺機器の接続用。
 - ※4:IoT の現場で使われる、マイクロ環境発電で動作する超低消費電力無線技術。
 - ※5:出典 テクノ・システム・リサーチ社「2016年ソフトウェアマーケティング総覧 EAI/ESB 市場編」
-

■「インフォテリア株式会社」について（Web サイト <https://www.infoteria.com/>）

1998年に国内初のXML 専門ソフトウェア会社として設立されたインフォテリア株式会社は、企業内の多種多様なコンピューターやデバイスの間を接続するソフトウェアやサービスを開発・販売しています。主力製品の「ASTERIA」は、異なるコンピューターシステムのデータをプログラミングなしで連携できるソフトウェアで、大企業、中堅企業を中心に6,117社（2017年3月末現在）の企業に導入されています。また、「Handbook」は、営業資料や商品カタログ、会議資料などあらゆる電子ファイルをスマートフォンやタブレットで持ち運べるサービスのスタンダードとして、1,193件（2017年3月末現在）の企業や公共機関で採用されています。

<プレスリリース 掲載 URL>

https://www.infoteria.com/jp/news/press/2017/06/21_01.php

【プレスリリースに関するお問い合わせ先（報道機関窓口）】

インフォテリア株式会社 広報・IR 室 長沼史宏
TEL:03-5718-1297 / FAX:03-5718-1261 / E-mail: press@infoteria.com

【製品に関するお問い合わせ先】

インフォテリア株式会社 Gravio 事業部 製品担当：垂見智真
TEL:03-5718-1250 / FAX:03-5718-1261 / E-mail: pm@infoteria.com

インフォテリア、ASTERIA、Handbook はインフォテリア株式会社の登録商標です。
本文中の商品名は、各社の商標または登録商標です。